

## 鹿児島市及び連携中枢都市圏3市の市民活動団体のご紹介



誰よりも、僕ら自身が楽しんでいるんです。

地域ケア交流会 山下真也(やました・しんや)  
永田健二(ながた・けんじ)

「1000人近い来場者でにぎわうイベントが吉田にある。」そう聞いて訪ねたのは福祉フェスタを運営するNPO法人地域ケア交流会のお二人。谷山地区や原良地区など市内各地で開催されており、それぞれの地区で運営の中核を担うスタッフがいる。今回は、吉田地区を担当するお二人にこのイベントがどのようにして広がっていったのか、なぜ続けているのか聞いた。

### 地域に密着したイベントを

僕らに関わり始めたのは4年目からでした。オアシス吉野という老人ホームに所属しているのですが、出店者として出たのが始まりです。翌年からは事務局として動いていました。

福祉フェスタ自体は今年で13年目を迎えます。第一回の来場者は50名程度と聞いていますが、昨年は800名近い方にお越しいただきました。

最初は吉田地区でスタートし、その後、鹿児島市からもっといろんな地域でやって欲しいというリクエストがあり、谷山と原良でも始めました。もちろん最初は四苦八苦しましたが、原良では1000名以上が訪れる大きなイベントとなっています。

僕たちの役割は、ブース出展してくださる方の募集や地元事業者への協賛のお願いのほか、チラシの制作・配布、ボランティアスタッフの取りまとめなど多岐に渡ります。イベントでは、抽選会やスタンプラリーを行うのですが、その景品を考えるのも私たちの仕事。人気ゲーム機や家電製品を用意したこともあります。

### 多種多様な人が混じり合うことでの地域貢献

福祉フェスタは、異業種連携による地域貢献を目的に始めました。一般の人も含めて、一緒に遊んで楽しんだり、学び合ったりするプロセスを共有することで、「支え合う」「助け合う」関係性を地域内に育てています。

最初は福祉関係のブースのみでしたが、様々な業種、団体との関係が生まれ、バラエティー豊かな多くのブースが出展してくれるようになりました。中でもスタンプラリーの景品は好評で、多くの方が訪れます。ファミリー層から近所のおじいちゃんおばあちゃんまで。ここ数年は常連さんとなって、毎年来てくれる人も増えています。

福祉フェスタは、3地域とも毎年、5月下旬～6月下旬の間に開催しています。スタッフの動き出しはとても早く、前年の11月くらいからそれぞれの地区で実行委員会を組織して、月一回のペースで会合を開いています。

財源は全て協賛金です。吉田地区で言えば、200くらいの企業・店舗が協賛してくれます。当初は、企画書を持っていっても怪訝な顔をされることも多かったですが、ここ最近はむしろ歓迎されていると感じています。フェスタのチラシは協賛してくれる企業・店舗の名前でびっしりです。

## 困った時に頼れる仲間がいること

当法人には6名の理事が所属しています。その6名が持つ想いにギャップがないこと、それが私たちの強みです。実行委員会のメンバーとのコミュニケーションや外部への情報発信がとてもしやすいと感じています。また、福祉フェスタの運営を通じた強みは、困った時に頼れる仲間が増えることです。マッサージ屋さんや靴屋さんなど、多様な事業者との繋がりが年を重ねるごとに広がっていきます。

昨年以上のクオリティでやらなければならない、という責任感はあまりなく、毎年試行錯誤しながら運営しています。関わってくれる人が多いので、いろんな意見を聞きながらやっていますね。

## 無理をしないこと。たくさん雑談をすること

毎年の課題は当日のボランティアスタッフの確保です。今、実行委員会には専門学校の先生などがいて、生徒さんが手伝ってくれています。今後はさらに規模を大きくしたいと考えているので、必要なボランティアスタッフを確保するため、もっと高校や大学と連携できるようにしたいと思っています。

ボランティアスタッフと関わる中で気をつけているのは、無理をさせないことと、たくさん雑談すること。フェスタは地域を巻き込んだ取組みで、年齢や業種など関わってくれる人たちも多種多様です。開催前に関係者全員で打ち合わせを行い、考えをすり合わせますが、それでも分からないことはたくさん出てきます。そんなときも気軽に聞ける関係性をつくることを意識しています。

そうして、毎回イベントが終わったら、ボランティアの人たち同士写真を撮り合うくらいには仲良くなっていますよ。

# 地域ケア交流会 団体概要

### <活動内容>

吉田、谷山、原良地区で「福祉フェスタ」を主催している。健康、福祉に限らず、地域の様々な企業・店舗がブースを出し、地域の人たちが交流する機会をつくっている。

### <課題への取り組み>

学校や大きな病院との連携は不可欠。若い人の力は必要なので、いかに楽しみながら関わってもらうか試行錯誤しています。

### <今後の展望>

より大きな場所で、規模を拡大して開催していきたい。そのために、今まで興味なかった人にも興味を持ってもらえるようなコンテンツを用意したい。

また、「福祉」をベースにしながらもその枠にとられないイベントを目指しているので、“福祉のイベント”というハードルをどう乗り越えるかは大事なポイントですね。

▷名称：NPO法人地域ケア交流会

▷代表者名：藤山貴博

▷会員数：10名

▷主な事業：福祉事業所の運営支援

▷連絡先：オアシス吉野

099-248-7205 担当 山下/永田

